

## ■ 霊体って何よ？

### 真面目に考えてみる

修正： 2023.02.01

投稿： 2023.02.01



## ● 霊体って何よ？

### 真面目に考えてみる①

前々から気になっていましたが、  
どうして幽霊は人の形をしているのでしょうか？

幽霊になったのだから、もう人間ではありません。  
であるにも関わらず、なぜ人の形をとるのでしょうか？

指は5本しかないし、足は2本しかない、  
不便極まりないように思うのですが…。

私は常々、「腕がゴムみたいに伸びればなあ〜」  
と思うことが多々あります(動きたくないだけ)。幽霊になったら、  
ぜひとも腕を、ゴムのように伸びる仕様にしたいと思っています。  
いや、そもそも幽霊になれば、

「人の形をとる必要なんてない！」

ではありませんか。ということは、  
上下左右前後のない対称的な空間として生きていける、  
ということになります。なるか？

であるにも関わらず、どうして、  
オカルト系のテレビ番組に出演する幽霊の方々や、  
目には見えないのに写真には写りたがる幽霊の方々は、  
みんなみんな、人の形をしているのでしょうか？

人間でいたときの先入観が強すぎるのか、  
それとも単に人の形の方が都合が良いのか、  
はたまた、私たちへの親切心か、  
(人の形であった方が私たちは馴染みやすい)

何にせよ、もう人間ではないのですから、  
人の形をとる必要はないのです。

ああ～、腕がゴムみたいに伸びればなあ～

(続)

//=====//

## ● 霊体って何よ？

### 真面目に考えてみる②

霊体って何よ？

一つの肉体に一つの霊魂が入っていて…、  
というような単純な話なのでしょうか。

もしそうだとすれば、幽霊はラブホテルに  
たむろしていることになりそうですが。

というのも、そもそも男と女がセックスしないと  
新しい個体は誕生しないわけで、その個体に対して、  
「これは俺の体！」と、花見の場所取りをする如く、  
事と次第によっては奪い合いも辞さないはずだからです。

つまり幽霊は、人間の性行為を観測し、受精を確認し、  
妊娠した女性に取り憑いていかなければなりません。

本当にそんなめんどくさいことをやっているのでしょうか。  
もっとスマートな方法がありそうなものですが。…。

逆に、自分に近い人が亡くなった際は、

### 「死んでも天国から見守ってくれている」

というようなことが言われたりしますが、もしこれが本当なら、  
プライバシーも何も無い、ということになります。

見守ってくれていると聞けば、何だか安心できますが、  
実態は、ただの監視です。常に見られているわけですから。  
(非同期コミュニケーションのためそうなります)

このように、  
よく考えればおかしなことになってしまうのは、  
自分たちにとって都合の良いように、  
幽霊やら何やらを定義してしまっているからです。

(続)

//=====//

## ● 霊体って何よ？

### 真面目に考えてみる③

#### 「肉体は死んでも霊魂は永遠に生き続ける！」

という思想をお持ちの方もいらっしゃることでしょう。

#### 「本当の自分はその世にあり、今の自分は仮のものだ！」

と考え、こちら側の肉体の自分が死んだとしても、その瞬間、  
意識はあちら側の自分に移り、そして今まで通り、いや、  
今までよりもずっとずっと楽しい世界へ旅立てるはずだ、と。

そんな感じで、たまに、天国に行くことに  
全人生を捧げている人と出会うのですが、そういう人は

何のために生きているのでしょうか…。ただどうやら、

「**死んで天国に行きたい!**」と言っている人も、  
本当のところ天国に行きたいわけではないようで、  
死後の行き先が「**天国**」と「**地獄**」しかないから、  
仕方なく「**天国**」と言っているだけのようです。

だからもし、不老不死の技術が確立されれば、  
「不老不死になってまで生きたくない」と強がっている人も、  
我先に治療を受けようとするのではないのでしょうか。

そんな不老不死を実現する案の一つに、  
脳の情報を取り出して**外部化**する、という方法があります。  
その場合、私たちの本体は「**情報**」ということになります。

であるならば、誰かの**記憶をコピー**させてもらえば、  
その瞬間その人は、コピー元の人の**生まれ変わり**に等しくなります。  
(私たちは情報を積み重ねた存在でしかないということ)

この考え方をとると、  
もし本当にあの世に自分の本体があるなら、死んだ直後には、  
そうしたことが起こることになります。であったとしても、

今の自分は、寿命とともにお役目ご苦労様と  
消えていくことに変わりはありませんが。  
まあしかし、それもそれでイイカモシレナイ。むしろ、  
**運命**として積極的に受け入れていくべきでしょうか…。

と、いうことで、  
この私の記憶を統合することになっている君へ、  
後は任せたよ、本当のボク!

(完)

//=====//

Web サイト :

**心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー**

著者 :

**時無 和考(Tokinashi Kazutaka)**